橋　戸

令和４年４月２８日
学校だより　第２号
練馬区立橋戸小学校
校　長　　青木　俊哉

“魔法の言葉”はありませんが…。

校　長　青　木　俊　哉

「本好きな子供を育てるには、どうしたらよいですか？」と保護者から聞かれた時には、「お家で、大人も本を読むことをお勧めします。」と答えています。まだお子さんが小さい年齢なら“読んであげる”のもよし、大きくなってきたら“一緒に読む”もよし、“読む本は別でも、読む時間や場所を共有すること”もプラスに働くはずです。科学的な根拠はありません。経験や自分自身の学びに基づく話ですが、少なくとも、「読みなさい！」と何度も強く言うよりは効果があることを、長く務めた担任時代に実感してきています。

今年も、**『こどもの読書週間』**の季節が来ました。**子ども読書の日**である４月２３日から５月１２日までの約３週間、**『ひとみキラキラ　本にどきどき』**の標語の下、本に親しむための活動やイベントが、様々催されています。図書館や書店へ足を運んでみると、何か新たな発見があるかもしれません。休日が続くこれからの時期、親子で一緒に本を読み、挿絵を眺めたり活字を追ったりする時間をもてるとよいですね。

話を戻します。子供に、“これ”をやらせたい、“何か”を好きにさせたいと願うとき、秘訣とまではいえませんが、周りの大人がやってみせることや、やっている姿を楽しそうに感じさせることが、大事ではないかと思います。例えば、学校でも、「朝の読書タイムには、担任の先生たちも本を手にして、読んでください。」「休み時間は、先生も外に出て、子供と一緒に遊ぶといいですよ。」などと促すようにしています。もちろん、子供たちがどんな本を読んでいるか…机間を回って確認したり、遊んでいるときの子供の動きや様子を観察したり…といったことも大事ですが、先生が一緒にする、してみせることの効果は絶大です。担任の先生が休み時間に外に出ていると、自ずと教室に残る子が減り、クラスの様子や子供の姿が変わってくることは、私自身がいくつもの学校で経験し、見てきたことです。また、担任が好きなことや日頃よく話題にすることは、いつの間にかクラスの子供たちに浸透する、そんなことも起こる程、大人の影響は大きいものです。ご家庭でなら、保護者の皆さんが“一緒に何かする”ことの効果に期待したいところです。「範を見せる」というと大げさに聞こえますが、大人がその姿を見せることは、子供の意識を高め、確実に子供に伝わり、定着につながるきっかけとなります。例に挙げた読書や運動だけでなく、挨拶や交通ルール、礼儀やマナー、食習慣、人との接し方や話し方など、様々な場面で役立ちます。「子は大人を映す鏡」とも言います。学校で、日々子供と接する私たち教職員も気を付けてまいりますが、コロナ禍でおうち時間の長い昨今ですから、ご家庭の保護者の皆様にも、子供に見せたい姿やまねてほしい振る舞いを、少しでも意識して過ごしていただけると、嬉しく思います。

ちなみに、今年の**秋の読書週間**（子供限定ではない取組の期間）の標語は、**『この一冊に、ありがとう』**とのこと。そんな一冊に出会えることを願い、本屋に足を運び、本を手にとることから、私も始めてみます。